

令和2年度第1回生活習慣病検診管理指導協議会胃、大腸、肝がん部会 会議録
(令和3年3月31日掲載)

1 日 時 令和3年3月22日(月)から令和3年3月29日(月)

2 場 所 書面開催

3 出席者(敬称略)

(委員) 依田芳起 佐々木勝彌 飯野弥 榎本信幸
宮坂芳明 矢崎貴恵 津金永二

(事務局) 健康増進課長 総括課長補佐 がん対策推進担当

4 議事の概要

(1) 胃、大腸、肝がん検診の実施状況について

○全体について

委員：いずれのがん検診においても、精検受診率、精検未把握率の改善が課題。

委員：今以上に要精検者への積極的なアプローチを行っても良いのではないか。

委員：健診、人間ドック受診による早期がん発見率が、自覚症状その他の早期がん発見率に比して高いことを分かりやすく受診者へ発信すべき。

委員：検診によるがん発見者の進展度をがん登録と突合することにより、詳細な分析が望まれる。

○胃がん検診について

委員：胃がんはピロリ菌除菌が進み、萎縮性胃炎からのがん発生が少なからず抑えられると思われる。胃内の観察も容易となっているので、しばらくは早期がんの発見が続くと思われる。

委員：胃がん内視鏡検診を行う一部病院では、検診中に生検を行うことが可能。検診にてがんを診断することができ、直接病院を紹介している。

委員：胃がんX線検査の要精検率の上昇は、ピロリ菌感染を疑い内視鏡検査を進めている例が少なからず含まれている可能性がある。

○大腸がん検診について

委員：大腸がん検診の精検受診率向上のため、より積極的な広報活動が必要。

委員：大腸がんの陽性反応適中度、発見率上昇は良い傾向と思われる。

委員：大腸内視鏡検査は、技術発達や麻酔使用による受診拒否の改善により徐々に進んでいるよう。内視鏡挿入困難者に対しては、わずかだがCTC検査を実施している。

○肝がん検診について

委員：肝がん検診は、国による指針の対象外となる検診ではあるが、ウイルス感染のようなマーカーが無い脂肪肝などによるがん発症があることや、胆道、すい臓がんの早期発見に貢献していることなど、よりよいスクリーニング方法ができるまでの役割は大きい。

(2) その他

委員：グラフ、図表を見やすく整理すべき。

委員：covid-19は今後、終息には至らないと思われるが、今後も引き続き書面開催可能か、検討が必要。

以上